

平成21年度全学共通科目
「情報探索入門」第7回
(2009年5月22日)

参考資料の種々とその利用 (その1: 講義編)

京都大学附属図書館研究開発室
准教授 古賀 崇

1

本日の内容

- 参考資料などの活用法の説明
– 百科事典を中心に
- 論文・レポート執筆の際のルールとマナー
– 引用を中心に DVD鑑賞あり
- 次回・次々回の演習に向けて

2

参考資料の活用

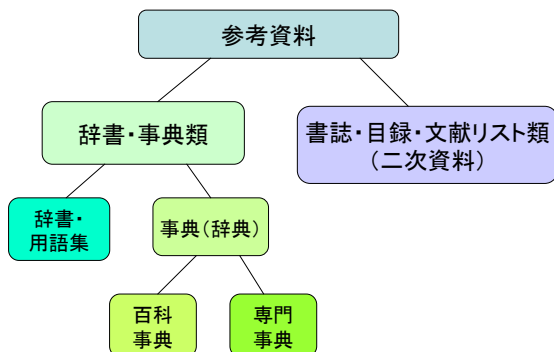
3

研究活動を通じて身につけて欲しい力 (第2回の復習)

1. 必要な文献を的確に探し出す力
 2. 集めた文献を主体的に読む力
 3. 論文として表現する力
– 引用のルール、マナーも含め
- 参考資料は1.に寄与

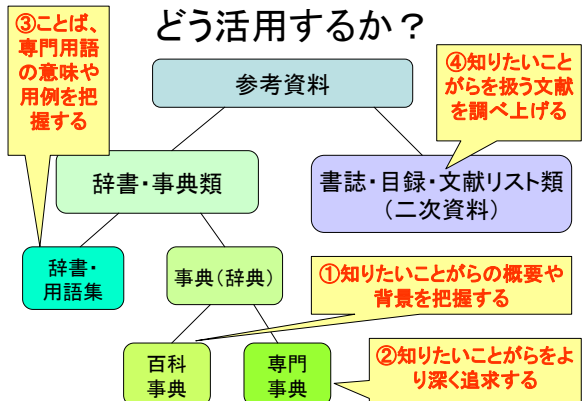
4

「参考資料」の大まかな分類



5

どう活用するか?



6

百科事典の特徴と機能

- 知識体系の構造化
- 「定説」の提示
- 専門家による執筆
- 一般の人向けの内容

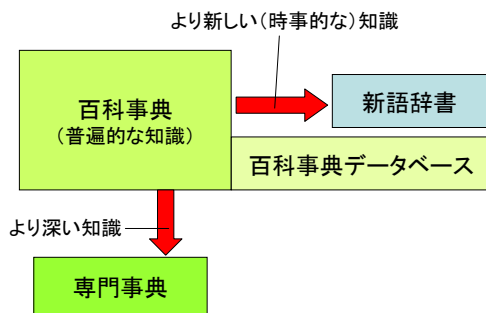
7

百科事典の使いこなし方

- 索引巻を先に引く(資料3参照)
- 執筆者、参考文献に注目する(同上)
- 複数の百科事典を引き比べる

8

百科事典と、関連する参考資料



9

新語辞書、それに類似するもの

- 現代用語の基礎知識(自由国民社)
- Imidas(集英社):2007年より書籍版は縮小
- 朝日キーワード(朝日新聞出版)
- 日本の論点(文藝春秋)

10

百科事典データベース (有料のもの)

- JapanKnowledge + NR
 - 京大で利用可能: 同時アクセスは「2」まで
 - <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/dbj/J.html>
 - 小学館の『日本大百科全書』『日本国語大辞典』などに基づく百科事典・辞書データベース
- ネットで百科@Home
- ポプラディアネット

11

JapanKnowledge + NR トップページ



12

出所: <http://www.japanknowledge.com/top/freedisplay>

『日本大百科全書』を検索

インフルエンザ
Influenza

インフルエンザウイルスによって起こる急性の呼吸器感染症。かぜ(またはかぜ症候群)に属する一疾患であり、かつては流行性感冒(英語でGrippe、ドイツ語でGrippe、フランス語でGrippe)とも呼ばれた。

関連サイト:

1. インフルエンザ(感染症情報センター)
2. 大阪府立公衆衛生研究所
3. Personal Health Center
4. かぜを断る!
5. 東京都健康安全研究センター
6. インフルエンザ情報サービス
7. 鳥インフルエンザに関する情報(厚生労働省)
8. 日本臨床内科医会

出所: <http://www.japanknowledge.com/top/freedisplay>

『日本大百科全書』を検索(続き)

ウィルスの感染と進展

呼吸器粘膜は、上皮細胞や絨毛(繊毛)の動きと粘液の作用で、侵入してきたウイルスを排除するという働きをほたしとする。感染初期のカニシムが働いているが、呼吸器粘膜に鼻やのどから侵入してきたウイルスがこの粘膜組織に打ち勝って呼吸器粘膜細胞に感染をおこすと、その細胞内でウイルスは増殖、発育、増殖したウイルスは細胞を破壊して細胞外に出て周囲の細胞へと感染を拡大していく。大発症になると、ウイルスの感染は鼻やのどの上気道から気管や気管支の下気道へ、ついで呼吸器の奥のほうへと進んでいき、それに応じて鼻やのどや気管支の炎症がある。したがって、急性気管支炎や急性気管支炎の症状が現れるわけであり、炎症が広範囲に波及すること、鼻などの全身の炎症も強くなる。

参考文献・音響映像資料:

- 永武悠樹『インフルエンザQ&A』(2000・医業ジャーナル社)
- 泉孝英・長井苑子編『医療者のためのインフルエンザの知識』(2005・医学書院)
- 加地正郎著『かぜへの挑戦』(講談社・ブルーバックス)
- 岡崎『インフルエンザの世紀——スペインかぜから「鳥インフルエンザ」まで』(平凡社新書)

『日本国語大辞典』を検索

〔名〕

〔英〕 influenza 元來はイタリア語で「影響」の意

《インフリュエンザ》伝染性の強い熱病。感冒の一種。ウイルスによって多く冬期に起こり、A・A1・A2・A3・B・Cの五型がある。一九一八～二三年にかけてのスペインかぜや一九五七年のアジアかぜなど、世界的な大流行をみることがある。呼吸器粘膜にカタル性炎症を起し、高熱を起し、筋肉痛、全身倦怠などを伴い、急性肺炎を起こしやすい。流行性感冒。流感。

※二人女房 (1891) (尾崎紅葉) 上・六「女子(そんな)は十九が厄年といふが、お前は、去年(ひと)く流行性感冒(インフルエンザ)をやったから」

※門 (1910) (夏目漱石) 一四「安井は此感性的寒気に中(あ)てられて、奇(ひと)いインフルエンザに罹った。熱が普通の風邪よりも赤程高かったので」

「参考資料」以外に
注目すべき情報源など

「レビュー」/Review

- 特定主題に関して、すでに発表された文献を総覧・評価→今後の研究動向を示唆
- 実例
 - 1年間の「総決算号」にレビューを載せるもの:『史学雑誌』『法律時報』
 - ほぼ毎号レビューを載せるもの:『カレントアウェアネス』(国立国会図書館、図書館情報学関連)
 - レビュー論文が中心となっているもの(レビュー誌):『児童心理学の進歩』、*Annual Review of Biochemistry*

「リーディングス」/Reader

- 特定のテーマに関し、優れている、あるいは特色のある論文を再録
- 実例
 - リーディングス日本の教育と社会(日本図書センター、2006-)
 - *Information Technology and Society: A Reader* (Sage, 1995)

資料の質の違いを考える

- 書籍 vs 論文
- 入門書(新書など) vs 教科書 vs 専門書
- 一般雑誌の記事 vs 学術雑誌の論文
- 学術雑誌の論文 vs 紀要の論文

19

推薦図書

- 妹尾堅一郎『知的情報の読み方』水曜社, 2004.
(右記)
- 妹尾堅一郎『考える力をつけるための「読む」技術』ダイヤモンド社, 2002.



20

出所: http://ec2.images-amazon.com/images/I/41GWCT03YPL_SL500_AA240.jpg

引用などに関するルール・マナー

21

著作権と引用

- 「著作物」の利用は、原則として「著作権者」の思いのままにコントロールされる
- いくつかの例外
 - 教育の場での利用
 - 図書館での利用: 貸出、複製など
 - 引用
- 著作権の話とは別に、情報利用のマナーとしても捉える必要

22

鑑賞するビデオ(DVD)

- 「情報教育教材シリーズ 情報倫理デジタルビデオ小品集3」独立行政法人メディア教育開発センター, 2008.
– 「27. Web貼り付けレポートはNG」

23

ポイントは...

- 引用の目的
 - 「自分の文章」と「引用部分」の主従関係もポイント
- 引用部分の明確化、被引用文献(出典)の明示
- 引用する情報源の取捨選択

24

その他の注意点

- 図・表の引用に関しても出典を明示する
- 実験や調査の結果に関するデータを改ざんしない
- 電子ジャーナル上の論文について、短時間のうちに大量にダウンロードしない

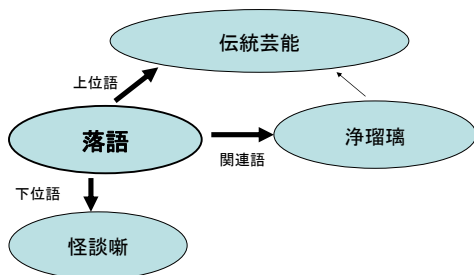
25

次回(5/29)・次々回(6/5)の
演習に向けて
(予習してくること!)

26

文献の探し方(1)

- 「何を探したいか」のキーワードと連想



27

文献の探し方(2)

- ことばの「掛け合わせ」のしかた(検索式)
- 資料4参照
- 「ノイズ」と「漏れ」

28

雑誌の中の論文を探す

- 本や雑誌という「単位」「固まり」では捉えられない
- 論文を探すしくみ(データベース)は別途構築
- 日本のものはCiNiiで

29

その他

- 自分が課題で扱いたいと思う分野(教室内に掲示)に移る
- 次回の附属図書館での演習に関する注意
- 資料一式は次回、次々回も持参のこと
- 課題は次々回の授業で提出(厳守!)

30